

文部科学省

「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」令和4年度

大館ふるさとキャリア教育

幼保小の架け橋プログラム

カリキュラム作成研修資料

大館市 令和5年3月



目次

- 01 — 『架け橋プログラム』への期待 大館市教育委員会 教育長 高橋善之
- 02 — 市としての作成方針 人と社会の幸いを希求する「大館ふるさとキャリア教育」
大館市共通版 架け橋期のカリキュラム全体計画
- 03 — 5歳児4月～9月
- 04 — 5歳児10月～1年生7月
- 06 — 1年生8月～3月
- 07 — 架け橋期のカリキュラム作成に向けて
モデル地区の実践・架け橋充実期のカリキュラム全体計画
- 08 — 城西小学校区
- 12 — 釈迦内小学校区
- 16 — 花岡小学校区
架け橋充実期カリキュラム 展開例
- 20 — ①遊びを発表会につなげる(5歳児9月～10月)
- 22 — ②文字や数を取り入れて遊ぶ(5歳児12月～1月)
- 24 — ③課題をもって調べ、伝え合う(1年生4月～5月)
- 26 — ④みんなのためにできること(1年生5月～6月)
架け橋充実期カリキュラム 交流事例
- 28 — ①手作りおもちゃで一緒に遊ぶ交流活動(5歳児・1年生11月)
- 31 — ②体験入学(5歳児・1年生2月)
架け橋期カリキュラム 実践例
- 32 — ①多様な育ちへの発達支援
- 33 — ②早期から英語に親しむ環境
- 34 — ③保護者との連携 メディアコントロール力向上に向けた取組
- 36 — 5歳児の遊びと環境の構成・1年生の学習・生活の環境



小学校の先生へ

次年度に小学校入学を控えた学年を「5歳児」または「年長児」と表記しています

『架け橋プログラム』への期待

大館市教育委員会 教育長 高橋善之

2011年度から、「消滅可能性都市」からの脱却を目指し、独自の「ふるさとキャリア教育」を根幹に教育を推進しています。郷土への誇りと愛着を醸成する「ふるさと教育」と、よりよく生きる力を育む「キャリア教育」を融合し、「少数精鋭の街大館」を構築すべき「未来大館市民」の育成、この一点に焦点を絞り取り組んできました。「人財」育成が目的なので、「大館盆地を学び舎に、市民一人一人を先生に」というコンセプトをもって、就学前教育から県立高等学校、地元大学までを貫く「縦の一貫」と、地域社会、地元産業界との「横の連携」態勢を構築しています。以来12年経過し、当時小学校1年生だった子どもたちも高校3年生となり、間もなく「未来大館市民」として続々と社会にデビューしてきます。そんな子どもたちの姿を通して、希望をもって大館の未来を語れるようになりました。

「縦の一貫」の中でも、最も早くかつ円滑に連携態勢を構築できたのが就学前教育と小学校教育、すなわち「幼保小の連携」です。かつては、幼稚園・保育所と小学校の間には、それぞれの指導の在り方に対する相互不信を背景とする深い溝がありました。その頃は、小学校1年生の段階での学級崩壊も発生し、その立て直しに2年も費したものです。これは学校にも当該の子どもたちの成長にも、大きな負担と負債を負わせる事態でした。そんな関係性を一気に改善する突破口になったのは、市の学校教育課と子ども課の人事交流です。相互の実状を十分把握している指導主事がキーウーマンとなり、その目指すところを「未来大館市民の育成」に統一し、幼保・小間に実効性の高い交流の機会を増やすなどして相互理解を推し進めました。現在では、相互のリスクと協働態勢が浸透し、小学校と学区内の保育園・こども園との交流や相互の保育・授業参観、市教職員研究実践発表会にて幼保の先生方も発表し、小学校の先生方が聞き入るといった光景も当たり前になりました。その教育成果については著しいものがあり、入学した1年生が、5月の段階から「おおだて型授業(響学)」の学びの態勢に入れるようになっていきます。大館が12年行ってきた教育イノベーションの中で、最も実効性が高かった一つが「幼保小連携」だと最高評価をしています。

その連携態勢をさらに発展させて、年中さんから小2までの4年間を対象に、一貫したカリキュラムを導入し、さらなる協働連携態勢の強化と一貫したキャリアアップを企図しているのが「架け橋プログラム」です。従来からの「ふるさとキャリア教育活動」に加え、「多様な発達への適切な対応」、「メディアコントロール能力の育成」、「英語に親しむ活動」などをカリキュラムに取り入れ、試行しているところです。これまでも、幼保小が共通して取り入れた「体感するふるさとキャリア活動」として、「はちくんダンス」があり、大館の子どもたちはこのダンスが大好きになり、ほぼ全員が踊れるようになりました。この年頃の子どもたちには、体感する活動であること、そして楽しいことが必須です。その観点から、最近、私案として、「大館版ももたろう」を構想しています。ストーリーは「ももたろう」と同様ですが、大館版は、お供する犬は「秋田犬」(国指定天然記念物)、鳥はキジでなく「比内鶏」(国指定天然記念物)、猿は世界自然遺産白神山地から降りてきた「北限の猿」という設定で、子どもたちは、「♪もーもたるさん、ももたるさん お腰につけたキリタンポ」と歌います(笑)。子どもたちと先生方の弾ける笑顔とともに「幼保小架け橋プログラム」が充実し、大館教育の進化を加速するブースターとなることを期待しています。



人と社会の幸いを希求する「大館ふるさとキャリア教育」 ～幼保小連携で「育ちと学び」をつなぐ～

このたび、文部科学省から「幼保小の架け橋プログラム」が示され、架け橋期の育ちの重要性が謳われるとともに、これまでの交流活動、教職員の合同研修、情報共有よりも一歩進め、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた教育・保育の充実が求められています。

大館市は、2011年度(平成23年度)から、「ふるさとキャリア教育」を通して0歳から22歳までの育ちと学びをつなぎ、大館の未来を切り拓く人財の育成に取り組んできました。

大館に育つ子どもたちは、家族や周りの大人に愛されて愛着を育みながら、やがて友達と関わり、遊びを通して様々な感情を体験し、社会性や協働力を身に付けていきます。また、学びの場を広げながら、仲間とともに体験を通して「気づき」「試し」「実感」し、「自覚」という学びのプロセスを重視した教育・保育の活動を基盤に、自ら考える力、思いを表現する力等を獲得するなど、子どもたちは自ら育つ力を蓄えていきます。大館の誇れる宝である子どもたちを、ふるさとを支える「未来大館市民」に育てるという目的を共有し、就学前も小学校もそれぞれの教育・保育を充実させることを第一にしながら、生涯で一番学びへの期待が膨らむ架け橋期の子どもたちと関係する大人が立場を越えて協働し支えていきたいものです。子どもたちが、学ぶ楽しさや成長する嬉しさを味わいながら、仲間と共に育ち合い、将来一人一人が社会の中で生きがいを感じながら人生を豊かに生きていくこと、他者と協働しながら豊かな社会の担い手となることを願って、生涯を支える背骨となる「人間の基礎力」を育てていきます。

また、本市では「おおだて型学力」として、「共感性」「協働性」を重視しています。そのため「架け橋期」を5歳児からではなく、仲間との関わりが深まっていく4歳児から、そして、教科学習、ギャングエイジにつながっていく小学校2年生までの4年間を、大きく一つの発達のかぐりと捉えることにしました。この時期にふさわしい援助・指導が積み重ねられ、市内どの園・小学校にいても発達に必要な経験が保障されるためには、園と小学校が市の教育理念を共有する架け橋期のカリキュラムが必要となります。

小学校や園の教職員が、互いの教育・保育の違いを理解した上で、小学校側は子ども一人一人の実態や、就学前にどのような経験をしてきたかを把握し、その発達の特性に応じた指導や学級経営に取り組む必要があります。一方、園側は、仲間との関係性の中で、ねらいや意図をもって子ども一人一人の育ちや学びを引き出すことが大切です。

そして、架け橋期は0歳からの育ちの上であり、架け橋期以降の学びや生活へとつながっていくことを念頭に置きながら、架け橋期にふさわしいカリキュラムを作成することが望めます。

まずは、校種や所轄等の垣根を超えて、共に大館の子どもを育てる大人の意識と協働性がカリキュラム作成の第一歩となります。



※「大館ふるさとキャリア教育」

「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」をコンセプトに、ふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育」と、その基盤の上に自らの人生の指針を描く「キャリア教育」を融合した本市独自の教育理念

大館市共通版 架け橋期のカリキュラム全体計画 5歳児4月～9月

架け橋期に期待する子どもの姿 ～周囲の人々や環境と主体的に関わり、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども～						
【知識及び技能の基礎】 豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かたり、出来るようになったりする。						
【思考力・判断力・表現力の基礎】 気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。						
【学びに向かう力・人間性等】 できるようになったことや分かったことなどを実感し、自分の成長を認め、次の活動や体験への意欲をもつ。						
月	4	5	6	7	8	9
期	5歳児 第1期			5歳児 第2期		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 年長としての意欲と自信をもって、自分の力を十分に発揮しながら安心して生活する。 			<ul style="list-style-type: none"> 友達と思いを伝え合いながらイメージを共有し、力を合わせて遊びや生活を進めていく中で仲間意識を高める。 		
育みたい資質・能力	知識及び技能の基礎					
	<ul style="list-style-type: none"> ア: 体を動かす楽しさや心地よさを感じ、いろいろな運動遊びに進んで取り組む。 ア: 災害時の避難の仕方や身の守り方が分かり、合図や指示に従って行動しようとする。 キ: 砂遊びや泥遊びを通して、園庭の土や砂の粒の大きさや性質などの違いに気付く。 ク: 縄跳びやフラフープなどの回数を数えるなど、遊びの中で必要感をもって数えることを通じて数を実感する。 			<ul style="list-style-type: none"> ア: 縄跳びや鉄棒などの遊びに応じた体を動かすコツをつかみ、十分に体を動かして遊ぶ。 オ: 絵本や図鑑、身近な暮らしなどから情報を取り入れ、遊びがより本物に近づいていくことを楽しむ。 キ: 身近な草花などを使った遊びや水遊びなどを通して、植物の特徴や色の変化、水温の変化などに気付く。 ク: 文字や数字、図形、標識などを遊びや生活に取り入れて使うことを楽しむ。 		
	<ul style="list-style-type: none"> カ: リレー遊びやドッチボールなどのゲームを楽しくするために、作戦やルールを話し合ったり工夫する。 キ: 園庭の草花や野菜、虫などについて、名前や世話の仕方などに興味をもって調べ、命あるものを大切にしようとする。 ク: 遊びや生活の中で、物の準備や後片付けをしながら、数える、比べる、形を工夫するなどを意識する。 ケ: 絵本や物語に親しみ、気付いたことや感想、想像したことを友達と伝え合うことを楽しむ。 コ: 体験したことや考えたことを、いろいろな素材や用具を使って自分なりに表現することを楽しむ。 			<ul style="list-style-type: none"> カ: 遊びの目的に沿って時間をうまく使ったり、場所や道具を選んだりして、自分たちで遊びを進める。 キ: 身近な自然や偶然出会った自然の変化に関心をもち、言葉で表現したり、調べたり試したりして遊ぶことを楽しむ。 ク: 収穫した野菜の数を数えたり、大きさや重さを比べたりしながら、大きい・小さい、多い・少ない、重い・軽いなどの言葉の意味を実感する。 ケ: ごっこ遊びや共同製作などで友達とイメージを伝え合い、共有しながら表現する喜びを味わう。 コ: 歌を歌ったり踊ったり、楽器を使って遊んだりすることを通して、曲の感じやリズムの変化を楽しんで表現する。 		
学びに向かう力・人間性						
<ul style="list-style-type: none"> イ: 縄跳びや鉄棒などで、自分の目標を立ててあきらめずに挑戦しようとする。 ウ: ルールのある遊びの中で、友達と競い合ったり応援したりして遊ぶ。 エ: すずんで挨拶を交わしたり「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ちを心をこめて伝える。 オ: 母の日や父の日などを通して家族の大切さに気づき大切にしようとする。 			<ul style="list-style-type: none"> イ: 体を動かす遊びに繰り返し挑戦し、できるようになった達成感を味わい、様々な運動に挑戦しようとする。 ウ: 友達とお互いの思いや考えを共有し、目的が達成できるように話し合ったり協力し合ったりする。 エ: トラブルを通して、思い通りにいかない葛藤を味わったり気持ちを調整したりすることを繰り返し、相手の思いに気づきながら仲間としてのつながりを深める。 オ: 高齢者や身近な人々との関わりを通して、親しみをもち関わる楽しさを感じる。 			
★行事・交流・活動・体験・研修	<ul style="list-style-type: none"> 入園式 進級の会 参観日 	<ul style="list-style-type: none"> 遊覧訓練 交通安全教室 ★小学校1年生の授業参観・情報交換会 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会 	<ul style="list-style-type: none"> 七夕会 参観日 ★幼児小連携推進会議 ★幼児小担任研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ★フール遊び交流 ★市夏研修会 ★保育体験 	<ul style="list-style-type: none"> お泊まり保育 ★生涯学習フェスティバル展示
○☆環境助の構的ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 目標をもって意欲的に取り組む姿勢を認め励まし、自信をもって自分らしさを発揮できるようにする。 ○ 1日の生活の流れを時計とともに表示し、活動の見通しがもてるようにする。 ○ 子どもが遊びを継続し、満足感や達成感を得られるように、場所や時間、素材や道具などを十分に用意し、遊びを保障する。 					
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発育上のことや家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりしながら、保護者の思いを受け止めるとともに、信頼関係を築いていく。 年長としての意欲と自信をもって生活している姿を伝え、ともに成長を喜び合えるようにする。 年間の行事予定やそれをリードする年長児としての役割を伝え、理解と協力を得る。 			<ul style="list-style-type: none"> 遊びの様子や行事などの参観、懇談を通して、「どのような育ちを願い、どんな経験をさせたいか」、子どもの変容を伝えながら成長を共有していく。 遊びや生活の中でのトラブルが成長につながることを伝え、様子を伝えながら理解を得るようにする。 早寝・早起き・朝ご飯や絵本の読み聞かせの大切さを伝え、理解と協力を得る。 		

大館市共通版 架け橋期のカリキュラム全体計画 5歳児10月～1年生7月

架け橋期に期待する子どもの姿

～周囲の人々や環境と主体的に関わり、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども～

- 【知識及び技能の基礎】 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、出来るようになったりする。
- 【思考力・判断力・表現力の基礎】 気付いたことやできるようになったことなどを使い、書いたり、試したり、工夫したり、表現したりする。
- 【学びに向かう力・人間性等】 できるようになったことや分かたことなどを褒め、自分の成長を認め、次の活動や体験への意欲をもつ。

月	10	11	12	1	2	3
ねらい	友達と一緒に考えたり、話し合ったり、折り合いを付けたりしながら共通の目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを味わう。			自分や友達のよさが分かり、認め合ったり受け入れ合ったりして協力して、遊びを進める楽しさややり遂げる満足感を味わう。		
知識及び技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関心をもち、生活リズムを整えたり、身の回りを整理、整頓したりする。 収穫した野菜などを友達と一緒に食べたり、遊びに取り入れられたりして、食べ物への関心を高める。 地域の公共施設や小学校などを訪れ、場所や状況に応じた約束を知り守ろうとする。 紅葉や落ち葉、冬芽、虫などの様子から、季節の変化や不思議さを感じたり、生命のサイクルに気付いたりする。 文字や数字、図形、標識などを遊びや生活に取り入れて使うことを楽しむ。 			<ul style="list-style-type: none"> 園生活の見通しをもち、時間を意識しながら、気持ちを切り替えて行動する。 手洗い、うがい、好き嫌いを減らすなど、健康な生活のために必要なことを進んで行う。 正月、節分、アメッコ市、ひな祭りなどの伝統文化を体験し、地域への親しみをもって遊びに再現する。 友達と一緒に縄跳びやコマ回しの回数を競ったりかるたやトランプなどの枚数を数えて記録したりして遊び、数字や表の便利さに気付く。 		
思考力・判断力・表現力の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要な物のイメージを友達と共有しながら、素材や用具の特性を生かして製作し、遊び方を工夫する。 身近な自然や偶然出会った自然の変化に関心をもち、言葉で表現したり、調べたり試したりして遊ぶことを楽しむ。 空き箱や紙などの形や大きさ、長さなどを捉え、組み合わせを考えながら作り上げることを楽しむ。 遊びを振り返って楽しかったことや困ったこと、明日やりたいことなどを言葉で伝え合う。 絵本や物語などのお話の世界を豊かに想像し、イメージを広げて遊びに取り入れられたり、言葉の楽しさや美しさに気付く、言葉を豊かにする。 			<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊びながら、共通の目的をもってアイデアを出し合い、試行錯誤する過程を楽しむ。 気温などの条件により雪質や氷のでき方が違うことなどから、自然現象への関心を高め、試して遊ぶ楽しさを味わう。 文字には人に思いを伝える役割があることに気付く、手紙などで伝えることを楽しむ。 園生活を振り返り、今まで経験したことや友達と協力した思い出などを言葉で伝え合い、成長した喜びを味わう。 みんなで気持ちを合わせて表現したり読み合ったりして、響き合いを楽しむ。 		
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 当番の仕事など、自分がしなければならないことを自覚し、忘れずにやろうとする。 劇遊びなどで、友達のよさを認め合いながら役割を分担したり力を合わせたりして遊びを創り上げることを楽しむ。 自分の思いを友達に伝えたり、相手の考えを受け入れたりして、折り合いをつけて遊ぶとする。 地域の方々や異年齢児、小学生など、様々な関わりの中で、相手や場面にに応じて話したり接したりしようとする。 			<ul style="list-style-type: none"> 園生活やクラスの自分の役割を果たそうとし、役に立つ喜びを味わう。 困った時には、友達や先生に自分から話したり、お願いしたいことを伝えたりして、自分たちで解決しようとする。 楽しく生活するためにきまりを守ったり、新たにづくったり、必要に応じてつくり替えたりしようとする。 園生活を振り返り、自分の成長や自分が大切にされていることに気付く、周りの人たちへの感謝の気持ちをもつ。 		
行事	<ul style="list-style-type: none"> 秋の遠足 発表会・お楽しみ会 クリスマス会 運動会 ★1年生との交流 ★小学校市教研組合研への参加 就学時健診 ★就学支援委員会 ★幼保小中連携メディアコントロール週間 			<ul style="list-style-type: none"> ★かるた大会 ★まめまき アメッコ市 ★体験入学 ひなまつり ★情報交換会 卒園式 お別れ会 ★養育・個別の教育・保育支援計画の送付 		
環境援助の構成ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって試行錯誤しながら実現に向かう場面を大切に、それぞれの持ち味を発揮したりお互いによさを認め合ったりしながら協力し合うことができるような言葉掛けをする。 一人一人の興味・関心に応じた絵本との出会いを大切に、絵本に親しむ環境を工夫する。 四季の変化や自然の美しさ、不思議さを感じられる体験、知的好奇心を満たす遊びや環境を工夫する。 			<ul style="list-style-type: none"> 今までの経験を生かして、心と体を十分に働かせて自分たちで遊びを進める姿を認め、満足感をもてるようにする。 子どもと一緒に園生活を振り返りながら、5歳児としての役割をやり遂げた達成感や自他の成長への喜びを共有し、自信をもって行動できるようにしていく。 卒園に向けて、自他の成長に気付いたり、お世話になった方々への感謝の気持ちをもったりできるように環境を工夫する。 		
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 就学時健康診断を機会に、入学までに身に付けたい習慣や力について話題にしていく。 就学に向けての心配や不安を受け止めて、安心して就学できるように子どもへの関わりを一緒に考えるとともに、必要な情報を提供し相談できる機会や場につなぐ。場合によっては小学校と情報を共有する。 			<ul style="list-style-type: none"> 卒園式、入学式までの予定などの情報を提供し、見通しをもって準備できるよう、また、不安がないように支援する。 子どもの頑張りのよさについて伝え、成長の喜びを共有し、自信と期待をもって入学できるように励ましや言葉掛けをお願いします。 就学に向けて、起床、就寝、食事の時間を見直し、規則正しい生活を送ることができるよう協力をお願いします。 		



▼幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿（10の姿）

- ア：健康な心と体
- イ：自立心
- ウ：協同性
- エ：道徳性・規範意識の芽生え
- オ：社会生活との関わり
- カ：思考力の芽生え
- キ：自然との関わり・生命尊重
- ク：数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ケ：言葉による伝え合い
- コ：豊かな感性と表現

4	5	6	7
小学校1年 第1期	小学校1年 第2期		
<ul style="list-style-type: none"> 小学校の生活や新しい学習に興味をもって取り組み、学級の友達や上級生、先生と進んで触れ合い、楽しく、安心して生活する。 楽しく生活するために大切なこと（元気のよい返事や気持ちを込めた挨拶、約束やマナーなど）のよさを実感し、進んで実践しようとする。（アイウエオ） 友達と一緒になかよく運動や遊びに取り組み、身体を動かす気持ちよさや楽しさを味わう。（アイウ） 新しい学習に興味をもち、教科書や鉛筆などの正しい使い方や姿勢などの学習の約束を進んで生かそうとする。（イエ） 気付いたことや思ったことを進んで話し、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことに注意して聞こうとする。（イケ） 本に興味をもって読み聞かせを聞いたり、学級文庫などから読みたい本を見つけて読むとする。（オコ） 気付いたことや思ったこと、想像したことなどを友達とやり取りする楽しさを味わう。（カケコ） 身近なことや経験したことなどから伝えたいことを選び、絵や言葉で表現する。（カクケコ） 身近な場所の春の様子を観察して季節の変化に気付く、友達と伝え合ったり遊びや生活に取り入れられたりする。（カキ） 学校探検で見つけたことや分かたことを自分の生活との関わりで捉え、友達と伝え合う。（カケコ） 身の回りの事象や具体物と関連させながら、ひらがなや数量、形などを実感として捉える。（カク） 新しく出会う先生や友達と進んで触れ合い、一緒に活動する楽しさを感じる。（イウオ） 相手や場に応じたあいさつや言葉遣い、表情や姿勢などを考えて、進んで関わろうとする。（イオケ） 相手の気持ちを考えたり自分の行動を振り返ったりして、気持ちを調整しながら楽しく生活しようとする。（ウオ） 自分でできることや当番、係の仕事、友達と協力し合いながら、進んでしようとする。（アイウ） 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の生活や学習に見通しをもって取り組み、共に活動する楽しさを友達と共有し、意欲的に活動や学習に取り組む。 生活のリズムが身に付き、活動に見通しをもって準備したり約束やマナーを守って行動したりしようとする。（アイエオ） 学校や通学路、公園などで安全に生活するために大切なことに気付き、守って行動しようとする。（アエオ） 聞き手を見て話したり、話し手に共感して相づちなどの反応をしながら聞いたりする。（ウケウ） 言葉遊びに親しみ、語のまとまりや言葉の響きを感じながら音読する。（クケコ） 植物の栽培や観察などを通して、自然の不思議さや面白さに気付いている。（カキ） 経験したことや身に付けたことを生かしたり友達の考えを取り入れたりして、よりよい方法を考える。（ウカケ） 伝えたい目的や相手に応じて、言葉や方法を選ぶ。（カケコ） 夏の自然を生かした遊びや水遊びなど、自分たちで試したり工夫したりして遊びを創り出す。（カケコ） 身の回りの言葉や数、自然などに興味をもち、感じたことや想像したことを文章や絵、歌や身体の動きなどで表現したり、生活に生かしたりする。（カキクケコ） 身の回りにある数やものの順序、長さなどの比べ方を考え、言葉やブロックなどを用いて表現する。（カクケ） 学級をより楽しくするために係の仕事を見直すなど、学級の生活を自分たちで工夫しようとする。（イウオ） 目標に向かって自分の力を発揮したり、友達や上級生と助け合って取り組んだりすることを通して、お互いのよさを理解し連帯感や所属感を深める。（アイウ） 身近な生き物の誕生や成長の様子を見つめ、親しみをもって関わり、命を大切にしようとする。（アエキ） 学校を支えているの方々や地域の方などいろいろな人と関わることを楽しみ、地域への親しみを深めるとともに、感謝の気持ちを感じながら自分ができることをしようとする。（イオ） 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会 家庭訪問 道徳訓練 ★幼保小連携推進会議 ★幼保小担任研修会 PTA授業参観・懇話会 終業式 夏休み ★市夏季研修会 ★保育体験 	<ul style="list-style-type: none"> ことばとまなひの小テスト ★就学支援委員会
<ul style="list-style-type: none"> 入学した喜びを共有し、意欲的に取り組もうとする姿を認め励ましたり、子どもの話を共感しながら聞いたりして、温かな安心できる学級づくりを工夫する。 幼児期とのつながりを考慮し、幼児期に親しんだ活動を取り入れ、自信をもって活動できるようにする。 子どもの思いを汲み取りながら、一人一人が安心感をもち、落ち着いた生活、学習できるように一緒に環境を工夫していく。 生活科を中心とした関連的な指導を行ったり、弾力的に時間割を工夫したりする。 学校の方針、1年生の目指す姿やスタートカリキュラム、重点施策等について伝え、理解を得る。 1年間の予定や1週間毎の具体的な予定を丁寧に伝え、保護者が見通しをもてるようにする。 連絡帳や通信などで子どもの様子を伝え、保護者が安心してできるようにするとともに、家庭でも話題にし、褒めたり認めたりしてもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な体験を通して、伝え合う、交流する、試行錯誤や繰り返す活動を保障し、お互いのよさやそれぞれの気付きを共有できるようにする。 運動会などの取組を通して、頑張っている姿や友達と協力している姿を価値付けし、意欲を高める。 登下校や縦割り班活動、運動会などへの取組を通して、地域の方々や他学年との関係づくりをするとともに、様々な人に支えられていることに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの頑張っていることやできるようになったこと、課題になることを具体的に伝える。 規則正しい生活習慣やメディアコントロール、読み聞かせや音読、家庭学習などを継続する大切さを啓発していく。 学校行事や学年の活動、PTA活動などの保護者ボランティアの教育的価値を伝えて協力をお願いします。 	

大館市共通版 架け橋期のカリキュラム全体計画 1年生8月～3月

架け橋期のカリキュラム作成に向けて

▼幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）			
ア：健康な心と体	イ：自立心	ウ：協同性	エ：道徳性・規範意識の芽生え
オ：社会生活との関わり	カ：思考力の芽生え		
キ：自然との関わり・生命尊重	ク：数量や図形、標線や文字などへの関心・感覚		
ケ：言葉による伝え合い	コ：豊かな感性と表現		

8	9	10	11	12	1	2	3
小学校1年 第3期					小学校1年 第4期		
<ul style="list-style-type: none"> たくさんの友達との関わりの中で、相手の思いや願いを感じながら自分の思いを表現し、主体的に活動や学習に取り組む。 体を動かして遊んだり、食事や手洗い、うがい、汗の始末をしたりなど、健康な生活について考え、進んで実践しようとする。（アイエ） 身近なことを表す語句の量を増やし、語や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにする。（クコ） 植物や虫などが生命をもっていることや成長していること、生命をつないでいることに気付いている。（カキ） 秋や冬になるといつも同じ現象が起こるなど、自然に一定のきまりがあることに気付いている。（カキ） 図書館の使い方やマナーを守って読みたい本を選び、読書に親しむ。（エオコ） 					<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の成長に気付き、お互いに認め合い、相手の気持ちを尊重しながら、自信をもって活動や学習に取り組む。 学習の見通しをもって、積極的に友達の話や聞き、質問や感想を述べようとする。（イウ） 1年生の初めに書いた文字や絵などと今を比べ、自分の成長に気付く。（イオ） 自分でできるようになったことや、自分の役割が増えたことなど、自分の成長に気付く。（アイオ） 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにする。（クコ） 冬の遊びや伝統行事への参加を通して、季節に合わせて自然や生活の様子に変化していくことに気付く。（オキ） 		
<ul style="list-style-type: none"> 話したいことの順序に気を付けながら分かりやすく伝えたり、理由を付けて説明したりする。（カケ） 友達の話や意見を聞いて、質問したり感想を伝えたり、相手の発言を受けて話をつないだりしている。（カケ） 学習や生活を見直し、さらに楽しくするために工夫できることや新しい約束などを考え話し合う。（イウエ） 既習を活用したり、ペアやグループで相談したりして、よりよい考えを見付ける。（ウカケ） 木の実など秋の自然を生かし、作りたいものに合った材料を選んだり遊び方を考えたりして作る。（カキケ） ものを種類ごとに分類整理したり10のまとまりを作ったりして、簡単な絵や図を用いて表す。（カク） 					<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や経験を生かし、事柄の順序に沿って構成を考えて1年間の思い出を書く。（ケコ） 雪や氷の特徴を生かした遊びを何度も繰り返し、友達と遊びを発展させる。（ウカキ） 入学した頃の自分と今の自分を比較して、自分のできるようになったことを探したり、実際にやってみたりする。（イオカ） 数量の關係に着目して、図を用いて問題の解決方法を考え自分や友達の考えを式や言葉を用いて説明する。（カクケ） 新しい1年生に学校のことを分かりやすく伝えるために、方法を工夫する。（ウオカケコ） 		
<ul style="list-style-type: none"> 友達のよいところを見つけ、お互いのよさを認め合う大切さに気付き、温かい学級をつくろうとする。（イウエ） 友達や家族に感謝し、みんなの役に立つ喜びを感じながら自分の役割を果たそうとしている。（イウオ） 喜んでもらえる活動や場に合った話し方や接し方を考えて、高齢者や年長児との交流を楽しむ。（イエオ） 学習や生活の過程や結果を振り返り、よさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。（ウオ） 					<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさや友達のよさに気付き、互いに認め合い、これからも自分の得意なことを生かしながら役割を果たしていこうとする。（アイウ） 郷土の文化や習慣、他国の言葉や文化などに触れ、慣れ親しむ。（オ） 1年間の学習や生活を振り返り、周囲の人々に支えられて成長してきたことを実感し、2年生への願いをもって意欲的に生活しようとしている。（アイオ） 「6年生を送る会」や卒業式の準備や練習を通して、6年生に感謝の気持ちをもつ。（オ） 		
<p>始業式 秋の遠足 学習発表会 施設訪問</p> <p>☆プール遊び交流 読書週間 就学検診</p> <p>★小学校市教研組合研への参加 ☆1年生との交流</p> <p>幼保小中連携メディアコントロール週間 冬休み</p>					<p>始業式 部分</p> <p>避難訓練 ☆体験入学</p> <p>スキー教室</p> <p>★教職員研究 実践発表会</p> <p>★情報交流会</p> <p>6年生を送る会</p> <p>卒業式 修了式</p> <p>★登録・個別の教育・保育支援計画の活用</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ☆学級集会や学習発表会など、共通の目的に向かって活動することで、思いを伝え合い協力して創り上げる体験をもてるようにする。 ☆縦割り班や異学年の子ども、幼児、高齢者など、関わりを段階的に広げ多くの人と交流することで、相手意識をもって行動できるようにする。 ○友達と話し合ったり考えをまとめたり、試行錯誤したり、振り返ったりする時間を十分に確保し、満足感や達成感をもてるようにする。 ・2学期始まりの準備物や生活リズムの回復について、協力をお願いする。 ・生活科「かぞくにここは大作戦」のねらいや内容を丁寧に伝え、継続してお手伝いに取り組みよう協力をお願いする。 ・子どもたちの活動の様子や頑張っている姿を伝え、家庭でも褒めたり認めたりしてもらえようとする。 					<ul style="list-style-type: none"> ☆体験入学では新1年生が入学を楽しみにするような活動を工夫できるようにする。 ☆「ありがとうカード」や「いいねカード」を交換し、お互いのよさを実感できるようにする。 ☆各教科を通して、1年間の成長を認め、2年生の学習や生活への意欲を高める。 ○1年間の成長に気付き、自分や友達のよさを実感できるように、子どもの作品やカード、写真などを掲示する。 ・子どもの成長について、家庭でも褒めたり認めたりしてもらえようようにお願いする。 ・自信をもって進級できるように、子どもが自分では気付かない内面の成長についても気付かせてもらえようようにする。 ・生活リズムや持ち物など、子どもと一緒に話し合ったり確認したりしながら、進級に向けての準備をしてもらえようようにする。 		

架け橋期に期待する子どもの姿

周囲の人々や環境と主体的に関わり、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら仲間とともに育ち合う子ども



「ふるさとキャリア教育」

- ・地域とのつながり・関わり（知る・親しむ・楽しむ）
- ・主体的な学び
- ・自己肯定感
- ・本物体験（五感を通した直接体験）の重視



「おおだて型学力」

- ・共感的協働力
=響学（育ち合う・学び合う）
- ・一人たりとも置き去りにしない
=個々の育ちを見取り、引き出す
- ・主体的、対話的で深い学びの実現

「架け橋期」

- ・人間的基礎力
- ・学びの喜びや楽しさを実感
=子どもの意欲や期待に応える保育・授業
- ・学びの自覚化へ
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通言語に

作成の手順例

市共通版を土台に、各小学校区の特色、各園や各小学校の独自性を尊重したカリキュラムを作成していきます。

- 1 担当者や窓口を確認し、顔合わせをする。年間の交流や参観の計画を立てる。（幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会）
- 2 1学期・夏休みを利用して、交流活動や授業・保育参観をし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に話し合いの場をもつ。校長や園長も加わっての協議により、小学校区としての強みや課題、「架け橋期に期待する子どもの姿」を明確にしていく。
- 3 市共通版カリキュラムを実践しながら、自校・自園なりのものに改善していく。
- 4 2学期には小学校や園の研究会に相互に参加し、指導方法や環境構成など、保育・授業の改善について協議する。（計画・要請訪問、学校評価・園評価等）生活科等での交流授業などで、子どもたち双方にとっての学びの機会を設ける。
- 5 冬休み中に、小学校区のカリキュラム作成作業を行う。（「共通して充実を目指す活動・体験」「交流の計画」の項目を記入。「ねらい」「小学校区で目指す子どもの姿」は必要に応じて修正する。）
 - 3モデル小学校区のカリキュラムを参考にする。
 - 架け橋コーディネーターや連携アドバイザーを活用し、助言を得る。

*「主体的・対話的で深い学び」の実現とは

子どもの学びへ向かう主体性と保育者の意図が合致したときに、子どもたちの遊びや学びが自覚や価値をともなって「深い学び」となる。

城西小学校区の実践 [城西小学校/大館ホテヤこども園/宮の杜神明こども園]

1. 学区の特色

秋田県初のコミュニティスクールである城西小学校は、地域の教育力を最大限に生かした学校経営を行っている。また、学区の私立幼稚園が認定こども園に移行することをきっかけに「幼保小連携」が保育・教育課程に位置付けられ、子ども同士、職員同士の交流や連携が継続的に行われている。

2. 今年度の取組

	子どもの交流活動	教職員の参観・合同研究会	架け橋調査研究委員会
5月	①運動会予行参観		
6月			
7月			
8月		①保育参観(神明こども園)	
9月		②授業参観+研究協議	
10月	②城西フェスティバル予行参観		
11月	③生活科交流授業	③生活科交流授業参観+情報交換	①協議(実態・課題共有)
12月		④お遊戯会参観(ホテヤこども園)	
1月		⑤保育参観(神明こども園) ⑥保育参観(ホテヤこども園) ⑦小学校全教職員架け橋期研修会	②協議(課題・育てたい力) ③カリキュラム作成
2月	④学校体験	⑧新入生情報交換	④カリキュラム作成 ⑤カリキュラム作成

3. 取組の実際

職員の交流により互いの保育・教育の理解を図る

1 小学校の授業参観・協議会への参加(9月22日/11月10日)

各園から年長児の担任が参加し、1年生の授業参観とその後の研究協議会に参加した。保育者は、1年生が自分の考えを発表したり友達と学び合ったりする様子を見て、大きな成長を感じていた。研究協議では、1年生で身に付けたい力と就学前の学びや育ちとのつながりについて考えを深めることができた。情報交換では、1年生の様子についての気付きを伝え合ったり一人一人の情報を密にしたりすることで、就学までに育みたい力についても共通理解を図ることができた。

2 保育参観と情報交換(8月22日/1月6日/1月11日)

小学校の職員がこども園の保育参観と情報交換に参加した。園の生活や遊びの様子を参観し、年長児の一日の生活の流れや体験や学び、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への理解を深めることができた。

3 就学前の発達に関する研修(1月12日)

小学校の職員全員と園の保育教諭・主幹4名が参加し、就学前の発達についての研修会を行った。協同性を高めるゲームの体験やグループの話し合い、校長の講話により、就学前の遊びや発達の過程について理解を深めた。全学年の担任が就学前の発達を理解することで、「1年生の育ちを全職員で見守ろう。」という意識が高まり、今後、他の学年の子どもの姿の見取り方や支援に生かすことにもつながると思われる。



交流活動を通して子どもの姿の理解を図る

1 生活科交流授業(11月10日)

1年生の生活科「あきのおもちゃフェスティバル」に4園の年長児が参加した。1年生が作った玩具の出店を回って遊びながら、1年生や他の園の年長児と交流した。1年生は、年長児に遊び方のコツを教えたり、「上手だね。」と褒めたりして、年長児に楽しんでもらおうと一生懸命関わっていた。年長児は、1年生がはきはきと進行したり、優しく接してくれたりする姿を見て、安心して活動し、1年生への期待を膨らませていた。



2 体験入学(2月7日)

就学予定の年長児と保護者が参加した。1年生が、学校の紹介をし、年長児とペアになって校内の探検をした。1年生の教室では、教科書の音読をしたり鉛筆で名前や好きな絵をかいたりして楽しみ、就学への期待を高めていた。1年生は、年長児と接しながら、自分の成長にも気付くことができた。保護者も、子どもたちの様子から、就学への心配が軽減されたことと思う。



カリキュラム調査研究委員会の実施

● 第1回(11月10日) ▶課題の焦点化

子どもの実態について情報交換をした。就学前6園から年長児の育ちについて実態や課題を出し合った。「相手の気持ちが分からずにトラブルになることが多い」こと、その理由として、「相手に自分の思いを言葉にして伝えようとするのが足りないのではないか」などが共通課題として挙げられた。

参加者: 校長/教務主任/1年担任/主幹/年長児担任



● 第2回(12月27日) ▶学区としての重点、育てたい力の決定

課題を踏まえて、「学区としての重点」「育てたい力」「そのために必要な環境、体験・活動」について協議した。①相手に思いを伝える力「言葉で伝える力」、②相手の気持ちに気付く力「共感力」、③みんなのために友達と助け合う「協働力」を共通の視点とした。

参加者: 校長/教務主任/1年担任/主幹/年長児担任



● 第3回(1月12日) ▶具体的な体験・活動の検討

共通の視点に基づいて、各園、小学校で行いたい体験や活動を位置づけたものを持ち寄り、表し方やつながりについて検討した。二つのこども園の行事や活動名が違っていても、タイトルを工夫して「ねらい」が分かる表し方にすることを共通理解した。

参加者: 校長/教務主任/1年担任/主幹/年長児担任

● 第4回(2月7日) ▶体験のねらい、活動内容の見直し

学区の共通の視点、目指す子どもの姿を達成するために、2園の体験のねらいを達成できる活動内容になるように見直しを図った。小学校も、園とのつながりを考えて見直した。

参加者: 校長/1年担任/主幹/年長児担任

● 第5回(2月21日) ▶幼保小のつながりを考えて検討、成果と課題の協議

全体計画の最終見直しを行った。学区で目指す子ども像の中で、今年度、特に重点とするものが分かりやすいように太字にし、ハートマークをつけることにした。

参加者: 校長/教務主任/1年担任/主幹/年長児担任

4. カリキュラム開発における成果と課題

1 成果

- ・カリキュラム作成に向けて園と学校職員が何度も協議したことで、学校区として目指す子ども像が明確になり、それぞれが取り組むべきことも明らかになってきた。
- ・小学校職員の就学前教育・保育の内容や子どもの発達に対する関心が高まり、学級経営や授業の中で子どもの発達を意識するなど、育ちや学びの連続性が担保されてきた。

2 課題

- ・取組の方向性は定まってきたが、カリキュラムとしてどのように整理し文字や表として表現するのが適切なのかについて、他地域の例を参考に今後も改善を図っていききたい。

城西小学校区 モデル地区架け橋充実期のカリキュラム全体計画

架け橋期に期待する子どもの姿
大館市 周囲の人々や環境と主体的に関わり、学び喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども
城西小学校区 豊かな体験を通して、学び喜びや楽しさを実感し、仲間と幸せを分かち合う子ども

月	10	11	12	1	2	3
ねらい	5歳児 第3期			5歳児 第4期		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に考えたり、話し合ったり、折り合いを付けたりしながら共通の目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを味わう。 			<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達のよさが分かり、認め合ったり受け入れ合ったりして協力して、遊びを進める楽しさややり遂げる満足感を味わう。 		
小学校区で目指す子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分がしたことや思ったことを話そうとし、相手の話を聞こうとする。 文字や数字、図形、標識などに興味をもち、遊びや生活に取り入れて使うことを楽しむ。 物の性質や素材の特性に気付いて選択したり、予想して試してみたりする。 絵本や物語に親しみ、気付いたことや想像したことを友達と伝え合ったり情景や心情のイメージを広げて遊びに取り入れたいりする。 考えを伝え合ったり相談したりしてイメージや目的を共有し、遊びや生活をつくる。 遊びや生活を進めながら友達と協力し合い、仲間意識を高める。 			<ul style="list-style-type: none"> 思ったことや考えたことを相手に分かるように話すとともに相手の話に興味をもって聞く。 文字や数量、表などを遊びや生活に進んで取り入れ、その役割や便利さに気付く。 様々な人との関わりの中で刺激を受けながら自分の見方や考え方を広げる。 身近な事象と関わる中で、変化や仕組み、法則性などに気付く、調べたり確かめたり工夫したりの試行錯誤を楽しむ。 友達のよさや一緒に遊ぶ楽しさを感じながら共通の願いや目的を実現させる喜びを味わう。 園生活やクラスの自分の役割を果たそうとし、役に立つ喜びを味わう。 		

言葉で伝え合う力

共通して充実を目指す活動・体験

みんなに伝えよう

<朝の会・帰りの会>
・今日うれしかったこと頑張ったこと、明日頑張りたいこと、教えてもらいたいことなどを発表する。
・友達の話を静かに聞いたり、認めたりする。

<かがやきタイム>
・自分の頑張ったり友達のよさを発表する。
・入学への期待を伝え合う。

みんなできりとりげよう

<運動会・おゆうぎ会>
・発表内容や役割分担を話し合う。
・困っている友達にアドバイスしたり、教え合ったりする。
・頑張ったことやもっとよくしたいこと等を振り返り、発表する。
・お遊戯会で使用する物を制作したり準備したりする。
・同じ目的・目標に向かい、仲間意識を高め、充実感を味わう。
・友達の考えを受け入れたり折り合いを付けたりする。
・友達のよさを認め合う。

<当番活動>
・順番や道具・用具を確認する。
・給食の盛り付けをする。(園児が食べたい量を自分で伝えようとする)
・みんなの役に立つ喜びを味わう。
・協力して活動する。

なかよく遊ぼう

<制作・自由遊び>
・作りたいもののイメージを伝え合ったり、遊び方やルールを教え合ったりする。
・役割分担の話し合いをする。
・友達とイメージを共有し、相談しながら一緒に遊ぶ。
・作ったものを見せ合い、共感したり認めたりする。

<ルールのある遊び>
・チーム分けや作戦を話し合う。
・友達に教えたり応援したりする。
・ルールを守って仲良く遊ぶ。
・友達と意見が違っても気持ちに折り合いを付けながら遊ぶ。
・勝敗に対し、喜んでいたり悔しがったりする一体感を味わう。
・一つのことを成し遂げる充実感を味わう。

感謝を伝えよう

<お別れ会・卒園式>
・どんな会にすれば、喜んでもらえるか話し合う。
・感謝の気持ちを言葉や歌で伝える。
・お世話になった先生や友達・異年齢児にプレゼントを製作して渡す。
・同じ目的・同じ目標に向かい協力し合いながら取り組む楽しさや達成感を感じる。
・園生活を振り返ったり、思い出したりする。
・自ら友達に教えてあげたり助ましたりする。

行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動
就学時健診	発表会	クリスマス会	豆まき	ひなまつり	
秋の遠足	☆1年生との交流		☆体験入学	お別れ会	
運動会				卒園式	
幼保小中連携メディアコントロール週間					
小学校市教研総会への参加	保育参観		教職員研究実践発表会	情報交換会	園児・園長の交流行事 実行
○☆環境助の構 成ポイント	☆共通の目的に向かって試行錯誤しながら実現に向かう場面を大切に、それぞれの持ち味を発揮したりお互いによさを認め合ったりしながら協力し合うことができるような言葉掛けをする。		☆今までの経験を生かして、心と体を十分に働かせて自分たちで遊びを進める姿を認め、満足感をもてるようにする。		
	○一人一人の興味・関心に合わせた絵本との出会いを大切に、絵本に親しむ環境を工夫する。		☆子どもと一緒に園生活を振り返りながら、5歳児としての役割をやり遂げた達成感や自他の成長への喜びを共有し、自信をもって行動できるようにしていく。		
	○四季の変化や自然の美しさ、不思議さを感じられる体験、知的好奇心を満たす遊びや環境を工夫する。		○卒園に向けて、自他の成長に気付いたり、お世話になった方々への感謝の気持ちをもったりできるような環境を工夫する。		
家庭との連携	・就学時健康診断を機会に、入学までに身に付けたい習慣や力について話題にしておく。		・卒園式、入学式までの予定を示し、見通しをもって準備できるように支援する。		
	・就学に向けての心配や不安を受け止めて、安心して就学できるように子どもへの関わりを一緒に考えるとともに、必要な情報を提供し相談できる機会や場につなぐ。場合によっては小学校と情報を共有する。		・子どもの頑張りのよさについて伝え、成長の喜びを共有し、自信と期待をもって入学できるような励ましや言葉掛けをお願いする。		
			・就学に向けて、起床、就寝、食事の時間を見直し、規則正しい生活を送るよう協力をお願いする。		



本気ッくん

大館ホテヤこども園・宮の杜神明こども園

大館市立城西小学校



月	4	5	6	7	
	小学校1年 第1期		小学校1年 第2期		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の生活や新しい学習に興味をもって取り組み、学級の友達や上級生、先生と進んで触れ合い、楽しく、安心して生活する。 学校生活に必要な約束やルール、マナーに気付き、身の回りのことを自分でやろうとする。 新しい学習に興味をもち、学習の約束を進んで生かしながら意欲をもって取り組む。 学級の友達と一緒に活動する楽しさや様々な考えに触れる喜びを味わう。 学び合いの約束を生かして自分の思いを表現したり友達と伝え合ったりする。 新しく出会う先生や友達と一緒に活動する楽しさを感じながら進んで関わろうとする。 相手の気持ちを考えたり自分の行動を振り返ったりして楽しく生活しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 小学校の生活や学習に見通しをもって取り組み、目的や学び楽しさを友達と共有し、自信をもって活動する。 学校生活のリズムが身に付き、活動に見通しをもって準備したり約束やルールを守って行動したりする。 学校や通学路、公園などで安全に生活するために気を付けることに気付き、守って行動しようとする。 経験したことや身に付けたことを活用したり友達の見方や考え方を取り入れたりしながら課題を解決する。 自分の伝えたい目的や相手に応じて、言葉や方法を選んで伝えようとする。 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、連帯感や所属感を深める。 学校を支えている方々や地域の方などいろいろな人と関わることを楽しみ、地域への親しみを深める。 		

みんなと伝え合おう

<朝の会・帰りの会>
・元気に挨拶したり、みんなと仲良く歌ったりしながらクラスの一体感を味わう。
・自分の頑張ったり楽しかったこと、友達のよさを発表する。

<かがやきタイム>
・学校の振り返りを伝え合う。

どうせよろしく

・自己紹介カードを使って友達と交流する。(国語「どうせよろしく」)
・探検して見つけたことを友達に絵や言葉で伝える。
・学校生活に必要な場所や安全に気を付ける場所に気付く。(生活「学校たんけんしよう」)
・安全に登下校するためのルールやマナーを知る。(生活「みんなでつづがくろがあるころ」)
・友達と仲良くしようとする実践意欲と態度を育てる。(道徳「なかよくね」)

学校 大きく

・場に合わせた挨拶や言葉遣いを考え、伝え合う。(国語「なんていおうかな」)
・歌ったり踊ったりしながら友達と交流し合う。(音楽「うたでおどってなかよくしよう」)
・学校や校庭の施設、先生や友達などに好奇心をもち、関わろうとする。(生活「がっこうだすき」)
・学校生活を楽しくしようとする判断力と心情を育てる。(道徳「がっこうだすき」)

みんななかま

・応答したり、感想を伝えたりする。(国語「ききたいな ともだちのはなし」)
・なかよしタイムや本気ッくタイムで意見を交流し合う。(各教科)
・道具や自然を使った遊びを考え、ルールやマナーを守って仲良く遊ぶ。(生活「こうえんであそぼう」)
・同学年の仲間や兄弟学年の人たちと仲良く活動したり、友達のよさを見付けたりする。(ハートアップタイム)

自分の役割をやり遂げよう

・一人一人に役割をもたせ、学校の一人として集団活動に参加し、望ましい人間関係を築く。
・清掃活動・給食当番活動(学活「学校の係や当番を決めよう」)
・自分のやるべき仕事をしっかりと行おうとする実践意欲を高める。(道徳「おもしろじ」)

行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動	行事・FC 活動
入学式	1年生を迎える会	学校探検	給食開始	運動会	ことばとまなびの小テスト
PTA授業参観・懇談会				地域訪問	PTA授業参観・個人面談
縦割り清掃班スタート集会		交通安全教室・下校指導			終業式
					夏休み
就学前施設職員授業参観・懇談会参加				幼保小連携推進会議	授業参観
				幼保小担任研修会	授業参観
					授業参観
					情報交換会
○☆環境助の構 成ポイント	☆入学した喜びを共有し、意欲的に取り組もうとする姿を認めたり、子どもの話を共感しながら聞いたりして、温かな安心できる学級づくりを工夫する。		☆具体的な体験を通して、伝え合う、交流する、試行錯誤や繰り返す活動を保障し、お互いのよさやそれぞれの気付きを共鳴させるようにする。		
	☆幼児期とのつながりを考慮し、幼児期に親しんだ活動を取り入れ、自信をもって活動できるようにする。		☆運動会などの取組を通して、頑張っている姿や友達と協力している姿を価値付けし、意欲を高める。		
	○子どもの思いを汲み取りながら、一人一人が安心感を持ち落ち着いて生活、学習できるように一緒に環境を工夫していく。		○登下校や縦割り班活動、運動会、ふるさとキャリアの活動などへの取組を通して、地域の方や他学年との関係づくりをすることともに、様々な人に支えられていることに気付けるようにする。		
	○生活科を中心とした関連的な指導を行ったり弾力的に時間割を工夫したりする。				
家庭との連携	・学校の方針、1年生の目指す姿やスタートカリキュラム、重点施策等について伝え、理解を得る。		・子どもの頑張っていることやできるようになったこと、課題になることを具体的に伝える。		
	・1年間の予定や1週間毎の具体的な予定を丁寧に伝え、保護者が見通しをもてるようにする。		・規則正しい生活習慣づくりやメディアコントロール、読み聞かせや音読、家庭学習など、継続する大切さを啓発していく。		
	・連絡帳や通信などで子どもの様子を伝え、保護者が安心できるようにするとともに、家庭でも話題にし、褒めたり認めたりしてもらえるようにする。		・学校行事や学年の活動、PTA活動などの保護者ボランティアの教育的価値を伝えて協力をお願いする。		

釈迦内小学校区の実践 [釈迦内小学校/向陽こども園/釈迦内保育園]

1. 学区の特色

「ひまわり活動」を通して、地域とのつながりが深い地域である。こども園、保育園との交流も「ひまわり活動」を含めて、1年生だけでなく3・5年生ともずっと継続されている。さらに、近年は、私立こども園と保育園との交流、職員同士の交流へと広がってきている。

2. 今年度の取組

	子どもの交流活動	教職員の参観・合同研究会	架け橋調査研究委員会
5月	①ひまわり活動(種袋詰め) ②田植え ③ひまわり活動(種まき)	①授業参観+情報交換会	
6月		②要請訪問(保育参観)+協議(向陽こども園) ③生活科TT授業+協議 ④園評価・学校評価委員会	
7月	④プール授業参加2回		
8月		⑤小学校教諭の保育体験(向陽こども園)	
9月	⑤ひまわり収穫 ⑥学習発表会予行見学		
10月	⑦稲刈り ⑧焼き芋交流会 ⑨ひまわり油販売	⑥要請訪問(保育参観) +協議(釈迦内保育園)	
11月	⑩生活科交流授業	⑦交流授業打ち合わせ3回	
12月			①協議(課題・目指す姿)
1月	⑪図書館体験	⑧園評価・学校評価委員会	②カリキュラム作成
2月	⑫学校体験 ⑬雪遊び交流		③カリキュラム作成

3. 取組の実際

職員の交流により互いの保育・教育の理解を図る

① 小学校の授業参観・協議会への参加(5月19日)

各園から年長児の担任や主任等が参加し、1年生の授業参観と情報交換を行った。情報交換では、1年生の姿を「10の姿」の視点で捉えて話し合いを行った。入学後すぐに行うことで、子どもの育ちを共有し今後の援助・支援に生かす上で大変有効であった。



② 保育参観と研究協議への参加(6月7日/10月28日)

小学校の職員がこども園、保育園の保育参観と研究協議に参加。こども園、保育園の保育者同士も、お互いに保育を参観し合い協議にも参加し、子どもの育ちを共有している。

③ 保育者が生活科授業のT2・T3として参加(6月15日/6月21日)

生活科「なつがやってきた」のシャボン玉遊びに、園の保育者がT2・T3として参加した。年長の時の担任と一緒に活動しながら、子どもたちは安心して思いを表現していた。また、1年生の担任一人では、子ども一人一人の思いや工夫を見取って共感したり支援したりすることが難しいが、保育者が各グループの支援をすることで、それが可能になった。研究協議では、「10の姿」と関連を図りながら話し合いを深めた。

④ 保育体験(8月18日/8月23日)

夏休みを利用して、小学校教諭6名が、年長児の保育を体験した。幼児教育と小学校教育の環境構成や一日の流れの違い、カリキュラムのつながりなどを理解する機会となった。また、一緒に遊ぶことを通して、子どもたちが友達とどんな関わりをもっているか、どんな思いをもって、どんなことに気付いたり学んだりしているかなど、

遊びを通した子どもの育ちを実感することができた。一人一人の思いにいていねいに寄り添う保育者の姿から、子どもとの関わり方を考えることにもつながっている。

交流活動を通して子どもの姿の理解を図る

① ひまわり活動、農業体験を通した交流(5月16日/5月30日/6月1日/9月17日/10月7日)

ひまわりを育てて収穫する活動や田植え・稲刈り活動を年長児と一緒にしている。小学生は、年長児との関わり方を考えながら優しく丁寧に教えたり手伝ったりすることで、自己肯定感が高まり、年長児は、小学生や先生への親しみを感じながら関わりを楽しみ、その後の交流への期待を膨らませていた。



② こども園、保育園の年長児同士の交流(10月14日/2月2日)

保育園の焼き芋パーティーにこども園の年長児を招待している。5年目の今年は、さらに交流を深めるために、芋を新聞紙とアルミ箔で包む作業を一緒に行った。就学する小学校ごとのグループで、会話を楽しみながら作業する姿が見られた。冬は、保育園の年長児がこども園を訪れ、保育園にはない大きな雪山で、雪遊びや雪上綱引きを楽しみ、交流を深めた。

③ 生活科「あきのおもちゃでたのしくあそぼう」での交流(11月7日/11月15日) ※28ページ 交流事例参照

年長児を招待して一緒に遊ぶ活動。主体的で互恵性のある活動にするため、事前の打ち合わせを行い、単元の構成やお互いのねらいと援助・支援について共有した。

④ 小学校の図書室で本を借りる交流(1月18日/2月2日)

こども園、保育園の年長児が小学校の図書室から好きな本を借りる体験をした。読みたい本を見付けられず迷っている子どもには、図書委員会の子どもたちが、「どんな本が好き？」と声をかけて一緒に探したり、本を紹介したりしていた。上級生に優しくしてもらうことで年長児は安心感を得ることができた。

カリキュラム調査研究委員会の実施

● 第1回(12月16日) ▶ 目指す姿の共有

園と小学校の子どもたちのよいところや課題などの実態を話し合い、「どんな力を伸ばしたいか」を出し合った。「何事にもあきらめずに取り組む姿勢」や「自分も友達の思いも大切にしながら協力してやり遂げようとする態度」「物事を深く追求して考える力」などが共通課題として挙げられた。

参加者：校長/教務主任/1年担任/主幹・主任/年長児担任



● 第2回(1月11日) ▶ 共通の視点と具体的な体験・活動の協議

学区で共通して育てたい力を、①「進んで学ぶ(思考力)」②「協力して取り組む(協働力)」③「諦めずに取り組む(自立心)」として、具体的な体験や活動について協議した。参加者：教務主任/1年担任/主幹・主任/年長児担任

● 第3回(2月8日) ▶ 幼保小のつながりを考えた検討、成果と課題

学区の共通の視点に合わせて、それぞれの目指す子どもの姿や体験・活動を位置付けたものを持ち寄り、つながりを考えて見直しを図った。その後、メール等でのやり取りの中で、修正、確認作業を行った。参加者：教務主任/主幹・主任

4. カリキュラム開発における成果と課題

① 成果

- ・ 保育や授業の参観・協議への参加、交流の話し合いや調査研究委員会を通して、子どもの実態を理解し合い、架け橋期に育みたい資質・能力を共有することができた。
- ・ 幼小連携の交流活動が、ねらいを共有したり子どもの育ちを意識したりすることで、これまで以上にお互いが成長し、年長児が就学への期待をもてるようになった。また、1年生の姿から、年長児に育みたい力が見えてきた。小学校が、より身近に感じられるようになった。

② 課題

- ・ カリキュラムを生かし、子どもの姿を起点として定期的に評価・改善を図りながら連携を積み重ねていきたい。
- ・ 年度当初に年間の連携計画を見通して活動を調整し、無理のない充実した連携にしていきたい。

